

編集後記：今年の冬は2月に2度も太平洋側で大雪に見舞われた記録的な年でした。とくに、14日から16日にかけては関東甲信地方を中心に記録的な大雪になり、多くの農業用ハウスの倒壊など、大きな被害をもたらしたのは記憶に新しいところですが、記録的というだけあってそう毎年起こるものではないので、次第にそういった顕著な現象の記憶は薄れていきかねないものです。

そう思って昨年はどんな顕著な現象があったか見てみようと思い、「天気」に載っている「日々の天気図・今月のひまわり画像」を見てみました。「日々の天気図」は、毎日の天気図と天気現象がわかりやすく書かれていて、その月の大まかな天気の流れがわかるの

で、とても参考になりますし、勉強になります。

ばらばらと月ごとの日々の天気図をみていると、7月と8月では、日本列島に接近してくる台風が少なく、逆に10月では台風が多く、当時なぜだろうと不思議に感じていたことを思い出しました。また、10月16日に台風第26号による大雨により伊豆大島で甚大な土砂災害が発生したときの、ひまわりの衛星画像が掲載されていて、色々見ていくうちに、様々な顕著現象があったことを改めて思い出しました。

天災は忘れた頃にやってくると言いますが、今年の夏は大雨などの顕著な現象が無い平穏な夏であって欲しいと願うばかりです。 (中川憲一)